



大和市民活動センターは、2014年11月1日で10年目を迎えます。

2004年→2014年

この「**10年の歩み**」を毎月「あの手この手」に折り込んでお届けします。

〈その1〉

発行・大和市民活動センター 第1号 2014年4月1日発行

「新しい公共」って、「協働する」って、なんだろう。 その問いかけを続けてきた10年だったのかもしれない。

元協働の拠点運営委員会

会長 小杉皓男

「協働」はジグザグで進化していく

「新しい公共」そして「協働」という言葉は「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」のシンボルワードだと言っていいだろう。

大和市のこの「条例」が施行されたのが平成14年(2002年)。今年が平成26年(2014年)、ともかく12年間という年月を経た。

この「条例」の私にはどこかポエティックなリズムをもつ「前文」を読み直すたびに、そう世間っていうやつは甘くないよと思いつつ、ちゃんと社会の発展、人の動きを見据えていると思ひ直す。

・「前文」の一部を引用します。

<行政に担われていた「公共」に、市民や市民団体、そして事業者も参加する時代が来ています。「私」を大切にするために様々な選択肢があることが普通のことになってきました。このように、多様な価値観に基づいて創出され、共に担う「公共」を、私たちは「新しい公共」と呼びます。>

考えてみると、昔から「公共」という姿は確かにあったように思う。「結(ゆい)」とか「座」とか。そこのルールが世間とか社会を支えてきた。いさかいや対立があると、両者の長老が一晩中でも熟議し、決まったことを下ろすということもあった。そうして地域の「公共」は保たれてきた。

この世間(=社会)は「市民や市民団体、そして事業者も参加」してこそ「公共」が支えられていく



「タウンニュース大和版」2004年11月12日号より

ののだという思いは、例えば東日本大震災の復興の街づくりの進行過程で、私たちはたくさん見てきている。

情報や財源が「官」(=行政)に集中する過程で「公共」までいっしょに「官」に集中してきてしまったこれまでの歴史過程。けれども本来「公共」の担い手の主人公は「民」にあることをさまざまなシーンで確かめられることが多くなった。

「官」と「民」。それぞれの得意技を提供する「協働」という関係。大和市民活動センターはその「協働の拠点」であると「条例」の第9条に位置付けられている。

この「10周年」の折り込みはその「協働」に「センター」が果たしてきた役割の検証を次号から記していくということになるのだと思います。



「ひらこう みんなの力 集まる みんなの手」
 ～これでわかる「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」～



これは、大和市協働推進会議・協働を伝えようプロジェクトが2006年4月に発行した冊子のタイトルです。●「新しい公共」とは ●「市民活動」とは ●「社会資源」とは ●「協働」とは ●「協働の拠点」とは、の5つの項目からなり、あの手この手で問題解決する、大和市流の「新しい公共」という挑戦です。と書かれています。

「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」に基づいて設置された市民活動センターは、行政との協働事業で運営しています。協働の拠点運営委員会が発足したのが10年前。

準備段階から関わってきた人、公募による委員、市職員からなる委員会でした。事務局長として関わった間瀬富隆さんに、当時を振り返って感想を寄せていただきました。

大和市民活動センターの黎明期

協働の拠点運営委員会 事務局長 間瀬富隆



現在は柳橋1丁目自治会の副会長として活躍中。

2004年4月、市民活動センターの開設を目指して、市民の自由参加による「協働の拠点準備会」が立ち上がり、私もその仲間に加わった。

青少年相談所として使われ、その後、倉庫になっていた現在の建物は、建物全体のクリーニング、ペンキの塗り替え、床の張り替えなど、全て市民のボランティア活動で現在の姿へと変身した。

準備会活動の中で、委員は他市のセンター見学や関連の講習会に参加して、積極的に知識吸収に努めた。

協働の拠点運営委員会は、準備会メンバーの中から、小杉さんが会長に、私が事務局長に、事務局スタッフは公募者の中からそれぞれ選任された。運営委員は準備会メンバー及び一般公募によって選任された。

10月31日、市長他関係者を招いてオープニングセレモニーが行われ、11月1日より正式に運営委員会と大和市との協働事業がスタートした。

運営委員・スタッフ共に市民活動支援業務に関しては初体験であり、手さぐり状態の毎日だった。

スタッフの勤務は午前・午後それぞれ一人で対応する方式でスタートしたが、これには問題が発生。後に2人体制に変更した。少人数で来館者の対応、管理業務な

ど全てをこなす必要があり、スタッフ全員の資質向上が急務と考え、内部での勉強会開催や、近隣センターでの短期間の実習を実施した。

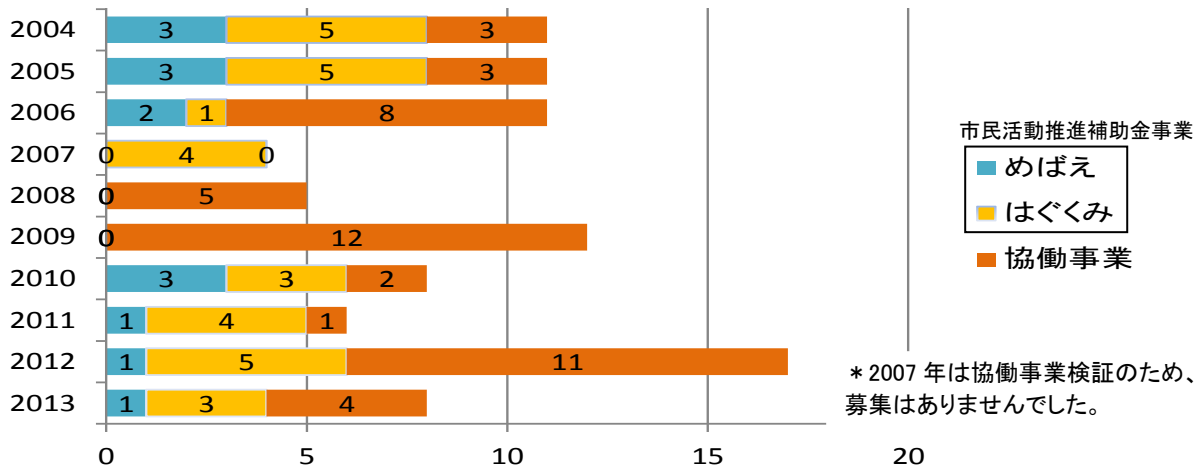
協働事業のパートナーである市民活動課とは緊密な連携のもと、業務上のアドバイスや、必要に応じて人的サポートを受けることもあった。

広報活動としては、広報紙「あの手この手」を発行。「FM やまと」出演、新聞社・ミニコミ紙などのマスコミの活用は現在も続いている。

2006年に市民活動団体の活動を多くの市民にPRするための「カッコーフェスタ」をスタートさせ、センターの大きなイベントとして定着している。

2008年3月まで約3年半に亘って続いた協働事業としてのセンターは、大和市の協働事業検証のため一旦休止し、補助金事業として再出発することになった。公募による審査を受けて、運営委員の有志とスタッフの有志で立ち上げた「拠点やまと」が補助金交付団体として1年間運営にあたった。2009年度、協働事業が再開し、現在に至っている。

大和市「市民活動推進補助金事業」と「協働事業」提案件数



* 2007年は協働事業検証のため、提案募集はありませんでした。